

カリスマ経営者の哲学に触れる

アビタス社長

みわ輪 豊明氏
とよあき 豊明氏



金川氏、永守氏の言葉に感銘…と三輪さん

アビタスは今年で16期目に入った。以前は同じ時期に創業した起業家と付き合っていたが、その中で現在も経営を続けている人はほとんどいない。経営者は困った時に助言をくれる上役もおらず、孤独なもの。私は困った時、誰かの助言が欲しい時に、本を手にとって読む。優れた経営者が書いた本を通じて、さまざまなことを学んでいる。

著書が上役の助言に代わり



経営者の著書の中で、今でも幾度となく読んでるのは、信越化学工業会長の金川千尋氏が書いた『社長が戦わなければ、会社は変わらない』だ。金川氏は社長時代に13期連続最高益を達成するなど、カリスマ経営者と言われた人。著書の中で特に印象に残っているのは「熱狂にあっても冷静に」という言葉だ。1999年頃、米国で塩化ビニール樹脂の市況が高騰した

ル樹脂の市況が高騰したが、金川氏はその後の下落を想定して、好況のうちに必要な時のために取っておくことが大事だ。

同じく経営者として感銘を受けたのは、日本電産社長の永守重信氏が書いた『人を動かす人になれ!』だ。永守氏は「人を動かす人間に土日も盆も正月もない」として、365日フル出勤しているという。その他にも「夜遅くまで残業する人より、朝30分早く出社する人を重視する」「1人の天才よりも100人の協働

で、永守氏独特の経営哲学がよく表れている。この本は経営者だけでなく、働く人すべてに読んでほしい。

永守氏はサブタイトルの「すぐやる、必ずやる、できるまでやる」や「1回でダメなら、20回続けよ」などに象徴されるように、人としての強烈なパワーを持っている。しかし、ただ厳しくパワフルなのではない。以前、「何のために働くのか」と聞かれた時、「雇用を生み出すため」と答えたという。永守氏の経営には「私心」が一切ない。経営者としてだけでなく、人間としても尊敬して

できるガンバリズムを持つた凡才によって会社は支えられなければならない」な

▲余

著書から経営学が

起業は難しい。事業を拡大させることはさらに難しい。ベンチャー企業の創業後の残存率は、創業1年で6-8割、10年存続する企業は半数にも満たないと言われる。起業家は壁にぶつかっても相談する人もなく、孤独に戦う。

滴

(東京都渋谷区)

アビタスは教育事業や人材事業などを軸に、順調に事業を伸ばしている。一から創業し、同時期に創業した仲間がいなくなっても、無借金経営が続けられる影には、本を通じて経営者から学ぶ、日々の努力があるのではないかと感じた。(高屋優理)